



平成24年度事業概要

国営沖縄記念公園 首里城地区

首里城公園

内閣府沖縄総合事務局
国営沖縄記念公園事務所



内閣府 沖縄総合事務局
国営沖縄記念公園事務所

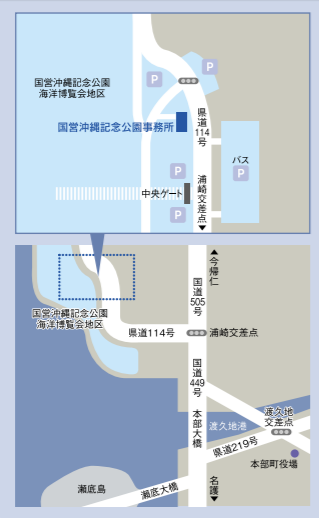
〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川1424番地
TEL. 0980-48-3140 FAX. 0980-48-3793
<http://www.dc.ogb.go.jp/kouen/>

首里出張所

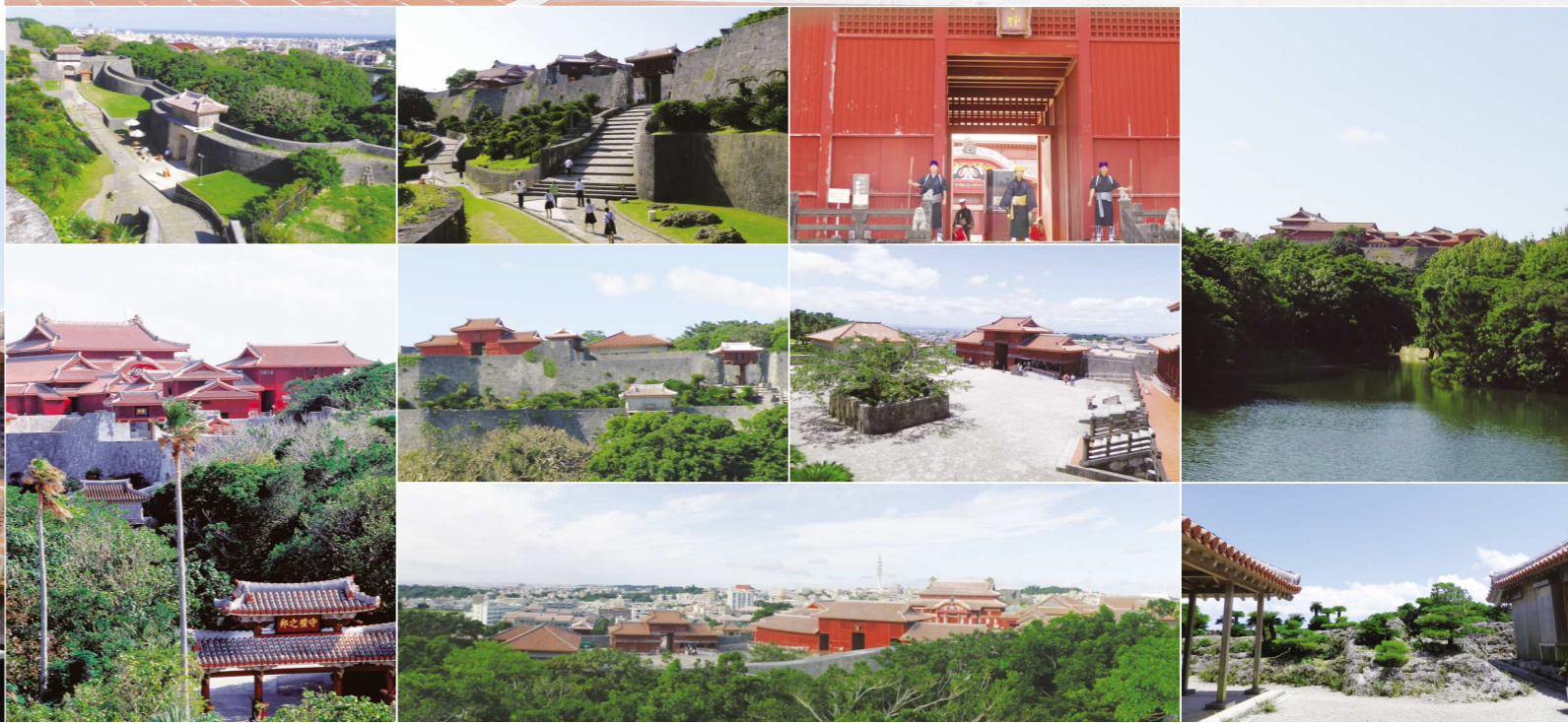
〒903-0812 沖縄県那覇市首里当麻町3丁目1番地
TEL. 098-886-3161 FAX. 098-886-3154

国営沖縄記念公園 Official Site
<http://oki-park.jp/>

国営沖縄記念公園事務所 所在地



首里出張所 所在地



歴史風土の探訪

貴重な国民の文化遺産を回復する目的で復元された首里城は、新たな県民文化の創出と伝統技術の継承・発展を図り、歴史的風土探訪の場として、整備を行っていきます。



新春の宴

基本方針

- 1 首里杜構想との整合性及び首里城の歴史的風致に配慮した施設配置計画を行う。
- 2 歴史・文化の拠点として魅力ある施設整備を図る。
- 3 将来に向かって沖縄の歴史・文化の拠点となるよう多様な活用を図る。
- 4 文化遺産の鑑賞、見学、体験という観光形態の充実を目指す。

琉球王国とは

今から約580年前(1429)に成立し、約130年前(1879)までの間、約450年間にわたり、日本の南西諸島に存在した王制の国が琉球王国です。

琉球諸島には、日本の鎌倉時代に当たる12世紀頃から各地に「按司」と呼ばれる豪族が現れ、互いに抗争と和解を繰り返しながら次第に整理淘汰され、やがて1429年尚巴志が主要な按司を統括し、はじめて統一権力を確立しました。

その後、琉球王国では独自の国家的な一体化が進み、中国をはじめ日本、朝鮮、東南アジア諸国との外交・貿易を通して海洋王国へと発展していきました。

琉球王国時代、首里城は国王とその家族が居住する「王宮」として、王国統治の行政機関「首里王府」の本部でもあり、また各地に配置された神女たちを通じて、王国祭祀を運営する宗教上のネットワークの拠点でもありました。また、首里城とその周辺では芸能・音楽が盛んに演じられ、

美術・工芸の専門家が数多く活躍しており、首里城は文化芸術の中心でもありました。1609年に日本の薩摩藩が琉球王国に侵攻して首里城を占拠し、それ以後270年間にわたり琉球王国は表向きは中国の支配下にありながら、内実は薩摩藩と徳川幕府の従属国であるという微妙な国際関係の中で存続していました。

しかし、やがて明治維新により成立した日本政府は、1879年(明治12)軍隊を派遣し首里城から国王尚泰を追放し、沖縄県の設置を宣言しました。



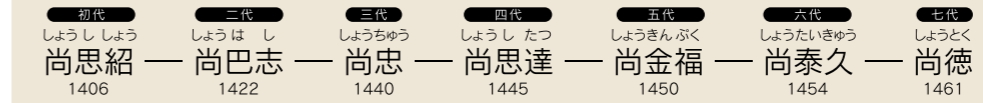
昭和8年以降の首里城(所蔵:文化庁)

首里城の歴史

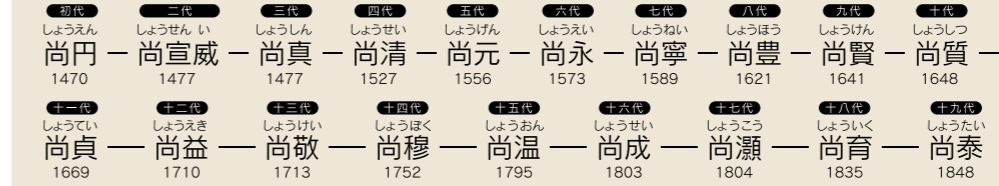
中国	日本	琉球	三山時代	1372 中山王察度、初めて明に使者を送る 1406 尚思紹(尚巴志の父)中山王になる 1427 龍潭を掘り、庭園を整備した 1429 尚巴志、三山を統一。琉球王国が成立
	室町時代	第一尚氏	1453 「志魯・布里の乱」が起こり首里城全焼 1458 万国津梁の鐘を正殿に掛ける	
	戦国時代	第二尚氏	1470 尚円、王位につく。瑞泉門を創建 1477~1526 歓会門、久慶門を創建する 1494 円覚寺を創建 1501 玉陵築造 1502 円鑑池、弁財天堂創建 1508 正殿に青石の石「高欄、大龍柱」設置。この頃北殿創建 1519 園比屋武御嶽石門を創建 1527~55 この頃龍樋、首里門(守礼門)を創建	
	安土桃山時代		1546 首里城東南の城壁を二重にし、羅世門を築く	
	江戸時代		1609 島津の琉球侵入 1621~27 南殿、創建 1660 首里城焼失 1672 首里城再建 1682 龍頭棟飾を焼き正殿、屋根に置く 1709 首里城焼失 1712 首里城再建、1715年に完了する 1729 正殿の玉座を中央に移し、「唐殿豊」と改名 1753 寝廟殿、世添御殿を創建	
	清		1768 正殿の大修理が行われる 1799 識名園が造営される 1853 ベリー一提督来琉。首里城訪問	
	明治	沖縄県	1872 琉球藩設置 1879 首里城明け渡し。琉球王国の崩壊 沖縄県誕生	
	大正		1925 首里城正殿、国宝に指定される	
	中華民国		1933 歓会門、瑞泉門、白銀門 守礼門、国宝に指定される	
	昭和	琉球県	1945 沖縄戦により首里城焼失 1957 園比屋武御嶽石門を復元 1958 守礼門復元 1968 円覚寺総門、弁財天堂復元 1972 日本本土復帰 1974 歓会門、復元竣工 1977 玉陵、復元竣工 1984 久慶門、復元竣工 1989 首里城正殿、復元工事に着手 南殿・番所、北殿、奉神門等の復元工事も着手される	
	平成	沖縄県	1992 首里城公園一部開園 2000 北殿にて「九州・沖縄サミット」社交夕食会開催。首里城跡、園比屋武御嶽石門、玉陵が世界遺産へ登録される 2003 京の内 一般公開 2007 書院・鎮之間 一般公開 2008 書院・鎮之間庭園 一般公開 2009 書院・鎮之間庭園、国の名勝に指定される 2010 淑順門 一般公開	

歴代王統図

第一尚氏王統



第二尚氏王統



御後絵



第二尚氏王統：三代尚真王

琉球王国滅亡後の首里城

1879年(明治12)春、首里城から国王が追放され「沖縄県」となった後、首里城は日本軍の駐屯地、各種の学校等に使われました。1930年代に大規模な修理が行われましたが、1945年の沖縄戦でアメリカ軍の攻撃により跡形もなく消滅しました。戦後、首里城跡地は琉球大学のキャンパスとなりましたが、大学移転後に首里城復元事業が推進され現在に至っています。なお、復元整備については18世紀以降の首里城をモデルとしています。また、2000年12月には史跡「首里城跡」は「琉球王国のグスク及び関連遺産群」のなかの一つとして「世界遺産」に登録されました。

首里城復元整備の意義

沖縄は、わが国の古い伝統の上に中国及び東南アジア諸国との活発な交流を通じて外来文化を学ぶとともに、自らの価値基準に立脚した独自の文化を発展させてきました。その歴史・文化の示す世界は、わが国の南の島々で展開された“もう一つの日本文化”であり、それはわが国の歴史文化の枠組みを拡大し、より豊かにする内容を秘めています。首里城は、伝統的な文化を基礎に置き、日本や中国の建築様式を巧みに摂取して造営された城郭であり、彫刻や彩色と建築が調和し、また城壁の石組みにも独自の造形と高度な技術が発揮されており、琉球王国時代の建築文化の粋を集めたものでした。

このようなことから首里城の復元整備を行う意義の要旨としては

- 1 貴重な国民文化遺産の回復
- 2 新たな県民文化の創出
- 3 伝統技術の継承と発展
- 4 歴史的風土探訪の場の形成

が挙げられます。

公園整備の経緯

戦災文化財の復元については、昭和32年より事業が始まり、守礼門、歓会門などの復元が進められました。昭和52年の琉球大学の移転に伴い、跡地利用計画が検討される中、第二次沖縄振興開発計画において首里城一帯の整備が提言され、さらに昭和59年には沖縄県が首里城復元整備の指針となる「首里城公園基本計画」を策定しました。

昭和61年には首里城公園計画区域約18haのうち、城郭内側約4haを沖縄復帰を記念する国の都市公園整備事業(国営沖縄記念公園首里城地区)で復元整備することが閣議決定され、併せて城郭外側の区域約14haを県営の都市公園事業として、また城郭は首里城城郭等復元整備事業として整備することになりました。

このうち、国営公園区域については、正殿を中心とした約2.8haを開園しており、未開園区域についても、発掘調査や復元整備を進めています。

首里城復元整備の基本方針

首里城復元整備における公園計画の基本方針を以下のように設定しています。

- 1 首里杜構想との整合性及び首里城の歴史的風致に配慮した施設配置計画を行う。
 - 首里の歴史的環境の重要な拠点として、首里杜構想との整合性に配慮する。
 - かつての首里城の地形、植生、各種構造物によって構成されている歴史的風致に配慮した施設計画を行う。
 - 県営公園区域と一体となった公園計画を図る。
- 2 歴史・文化の拠点として魅力ある施設整備を図る。
 - 沖縄の優れた建造物(木造建築、石造建築、彫刻)の再生によって国家的文化遺産として広く公開し、これを未永く継承していく。
 - 首里城を沖縄県民の愛情や誇りの対象とし、共有財産として守り育てる。
 - 首里城の持つ歴史性や存在意識を通して、沖縄の歴史や文化を広く国民に知らしめ、今後の沖縄の発展を考えるよすがとする。
 - 沖縄の伝統文化の継承・発展、新たな文化の創造・学習の場ともなり得る施設整備を図る。
- 3 将来に向かって沖縄の歴史・文化の拠点となるよう多様な活用を図る。
 - 沖縄の伝統・文化及び王朝時代の状況を展示・発表する。
 - 沖縄固有の歴史・文化にかかわる行事、祭事、芸能等について積極的に導入を図り、多様で変化に富んだ利用運営を図る。
 - 運営管理については、地元住民の利用に配慮しつつ適正かつ効果的な公園管理を図る。
 - 県営公園区域と一体となった公園管理を行うよう配慮する。
- 4 文化遺産の鑑賞、見学、体験という観光形態の充実を目指す。
 - 国際交流の一助を担える施設内容を検討する。
 - 沖縄固有の歴史・文化、琉球王朝の往時の状況を展示、発表するなど沖縄の歴史・文化の理解に役立つ施設内容とする。

施設の整備

平成24年度の主な事業【首里城地区】

首里城地区は、平成元年より復元工事に着手し、現在4.7haのうち約2.8haの整備が終わっており、平成24年度は、奥書院、黄金御殿・寄満(くがにうどうん・ゆいんち)、近習詰所(きんじゅうつめしよ)に関する復元工事を行います。

奥書院は国王が執務の間に休憩した建物で、奥書院庭園と一体となって機能していました。かつて国王の休息場所として機能していた奥書院を公園利用者にとっての「くつろぎの空間」としての休息機能を持つ施設として位置づけています。

黄金御殿は、王や王妃、王母の居室があり、正殿(せいいでん)や二階御殿(にーけーうどうん)とつながっており、御内原(おうちばら)の中心となる建物でした。寄満は、国王やその家族の毎日の食事を調理する建物で、黄金御殿とつながっていました。

近習詰所は国王への取次ぎを行う側近の者が控えていた部屋で、南殿(なんでん)、黄金御殿、奥書院を結びつける建物でした。

施設概要

黄金御殿・寄満・近習詰所 (RC造外観木造2階建)	奥書院 (木造平屋建)
建築面積 約592㎡	建築面積 約64㎡
延床面積 約984㎡ (1階496㎡、2階488㎡)	延床面積 約57㎡



黄金御殿・近習詰所・南殿(大正末期撮影)



手前が奥書院、奥が正殿(昭和初期撮影)



首里城完成予想図

整備済 整備予定 平成24年度整備実施

首里城復元整備の歩み

年代	事項
昭和33	守礼門復元修理工事竣工。
昭和43	円覚寺総門復元工事、弁財天堂復元修理工事竣工。
昭和44	天女橋修理工事竣工。
昭和45	琉球政府文化財保護委員会が、首里城跡及び周辺の戦災文化財の復元計画を策定。 日本政府は、第一次沖縄復帰対策要項を閣議決定し、戦災文化財などの復元修理を推進することを明らかにする。
昭和46	総理府沖縄北方対策庁予算の中で、戦災文化財復元調査費が計上される。
昭和47	第一次沖縄振興開発計画で、戦災文化財の復元を積極的に推進することを明記。 首里城歓会門の整備に着手。
昭和48	玉陵復元修理工事着手。 「首里城復元期成会」が結成される。
昭和49	首里城歓会門復元工事竣工。
昭和51	首里城久慶門の整備に着手。 玉陵復元修理工事竣工。
昭和53	那覇市総合計画の中で史跡の復元・保存がうたわれ、首里城周辺を公園緑地整備の一環として総合公園化する構想が立案される。 那覇市により「首里城跡周辺整備基本構想調査」が実施される。
昭和54	那覇市により「琉大跡地利用基本計画調査」が実施される。
昭和57	沖縄県より琉球大学跡地利用の計画がまとまる。 第二次沖縄振興開発計画の中で、「首里城跡一帯の歴史的風土を生かすつ、公園としてふさわしい範囲について整備を検討すること」が位置付けられる。 那覇市より「首里金城地区歴史的地区環境整備基本計画調査」が実施される。
昭和59	首里城久慶門内側の整備に着手。 園比屋武御嶽石門保存修理工事竣工。 沖縄県が「首里城公園基本計画」を策定。
昭和60	昭和60年度政府予算に首里城正殿等基礎調査費が計上される。
昭和61	沖縄県が「首里城公園整備計画調査」を策定。 国営公園区域について「国営沖縄記念公園首里地区(仮称)」として事業着手。

年代	事項
昭和61	11.28 「国営沖縄記念公園首里城地区」として、首里城跡約4haの整備が閣議決定。 国営公園予定地の周辺を、県営公園とすることで庁議決定。 那覇市により、史跡「龍潭及びその周辺の保存整備計画調査」が実施される。
昭和62	02.27 首里城公園(17.8ha)が都市計画決定される。
昭和63	首里城正殿の設計が完了。
平成元	07.18 首里城正殿建築工事に事業着手。 11.03 首里城正殿建築工事の起工式及び木曳式を実施。
平成2	首里社館建設工事に着手。
平成3	龍潭浚渫工事に着手。
平成4	首里城地区一部開園(供用面積1.7ha)。 正殿、瑞泉門、漏刻門、広福門が完成。 奉神門、南殿・番所、北殿、御庭が完成。
平成7	03.15 入園者500万人達成。
平成9	09.01 歓会門、久慶門内側周縁供用(0.1ha追加)。 12.24 首里森御嶽完成。 入園者1,000万人達成。
平成10	継世門完成。
平成11	白銀門完成。
平成12	二階御殿完成。系図座・用物座完成。 供屋(万国津梁の鐘)完成。日影台完成。 西のアザナ展望デッキ完成。
	06.02 入園者1,500万人達成。 右掖門完成。
	07.22 九州・沖縄サミットの社交夕食会が首里城で行われた。
	12.02 首里城跡地の世界遺産登録。
平成14	11.01 入園者2,000万人達成。
平成15	10.04 京の内供用(0.7ha追加)。
平成18	10.26 入園者3,000万人達成。
平成19	01.27 書院・鎖之間供用(0.1ha追加)。
平成20	08.01 書院・鎖之間庭園供用(0.1ha追加)。
平成21	07.23 書院・鎖之間庭園が名勝に指定される。(文部科学省告示)
平成22	04.01 淑順門供用(0.1ha追加)。

※赤:国が整備を実施 青:国以外が整備を実施

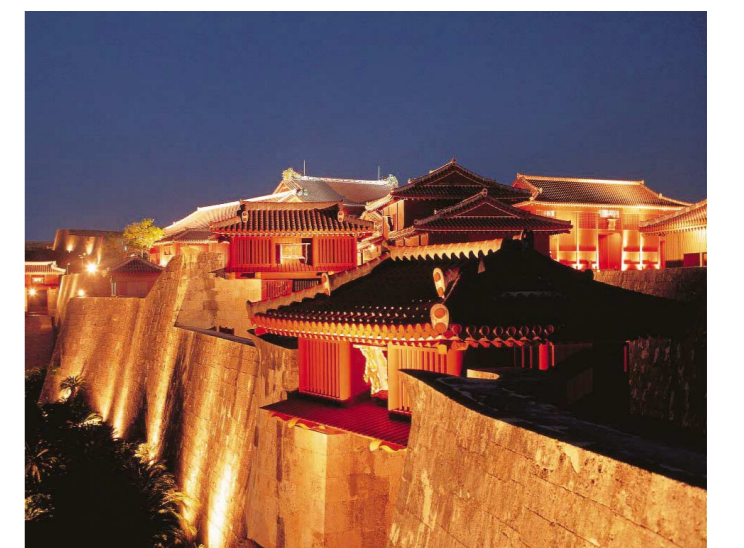
既に整備した施設

施設名称	復元又は開園年月日	施設概要
せいいでん 正殿	平成4.11.3	木造2重3階建て 建築面積約637㎡ 延床面積約1,199㎡ 棟高約15.6m
こうふくもん 広福門	平成4.11.3	鉄筋コンクリート造(外観木造) 建築面積約166㎡ 延床面積約156㎡ 棟高約9m
ろうこくもん 漏刻門	平成4.11.3	木造平屋建て 建築面積約21㎡ 延床面積約20㎡ 棟高約3m
ずいせんもん 瑞泉門	平成4.11.3	木造平屋建て 建築面積約19㎡ 延床面積約18㎡ 棟高約3m
しちやぬ うなー 下之御庭	平成4.11.3	面積1,771㎡
あがり 東のアザナ ※	平成8.1.31	首里城の東端に位置し、眺望の開けた場所である。往時は、鐘や旗を用いて城外への時刻伝達の役目も担っていた。(未公開)
すいむい うたき 首里森御嶽	平成9.12	城内でも最も格式の高い拜所の一つ。
はくせんもん 白銀門 ※	平成11.12	国王死去の際、靈柩を安置する寝廟殿があり、その正門が白銀門である。別名「しろがね御門」と呼ばれる。(未公開)
けいずぼ ようもつぼ 系図座・用物座	平成12.3	木造平屋建て 建築面積約207㎡ 延床面積約188㎡ 棟高約7m
にーけー うどうん 二階御殿 ※	平成12.3	国王の日常の居室や書院に使われ「御住居御殿」と呼ばれた。(未公開) 1階鉄筋コンクリート造(外観木造) 2階木造 建築面積約269㎡ 延床面積約430㎡ 棟高約9m
ともや 供屋	平成12.3	木造平屋建て 建築面積約20㎡ 延床面積約20㎡ 棟高約4m
にちいだい 日影台	平成12.3	日時計。漏刻門に設置されていた水時計の補助的な道具として使われた。
いし 西のアザナ展望デッキ	平成12.3	標高130mの展望デッキ。バリアフリー構造となっており城外・城内を眺望するには最高の場所。
うえきもん 右掖門	平成12.6	木造平屋建て 建築面積約15㎡ 延床面積約14㎡ 棟高約3m
きやううち 京の内	平成15.10	面積7,498㎡
しよいん さすのま 書院・鎖之間	平成19.1	木造平屋建て(地下部:RC造)1棟 建築面積約440㎡ 延床面積約676㎡ 棟高約8m
しよいん さすのまていえん 書院・鎖之間庭園	平成20.8	面積801㎡
しゅくじゅんもん 淑順門	平成22.4	木造平屋建て 建築面積約15㎡ 延床面積約14㎡ 棟高約3m

※は現在、未供用

施設名称	復元又は開園年月日	施設概要
はくでん 北殿	平成4.11.3	鉄筋コンクリート造(外観木造) 建築面積約532㎡ 延床面積約467㎡ 棟高約9m
なんでん ばんどころ 南殿・番所	平成4.11.3	鉄筋コンクリート造(外観木造) 建築面積約448㎡ 延床面積約609㎡ 棟高約11m
ほうしんもん 奉神門	平成4.11.3	鉄筋コンクリート造(外観木造) 建築面積約502㎡ 延床面積約5113㎡ 棟高約10m
うなー 御庭	平成4.11.3	面積約2,867㎡

国が整備した施設 都市再生機構が整備した施設



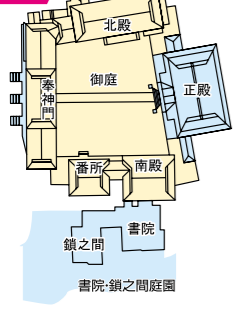
国営沖縄記念公園 首里城地区管内図

0 20 40 60 80 100m



整備の事業主体区分

有料区域

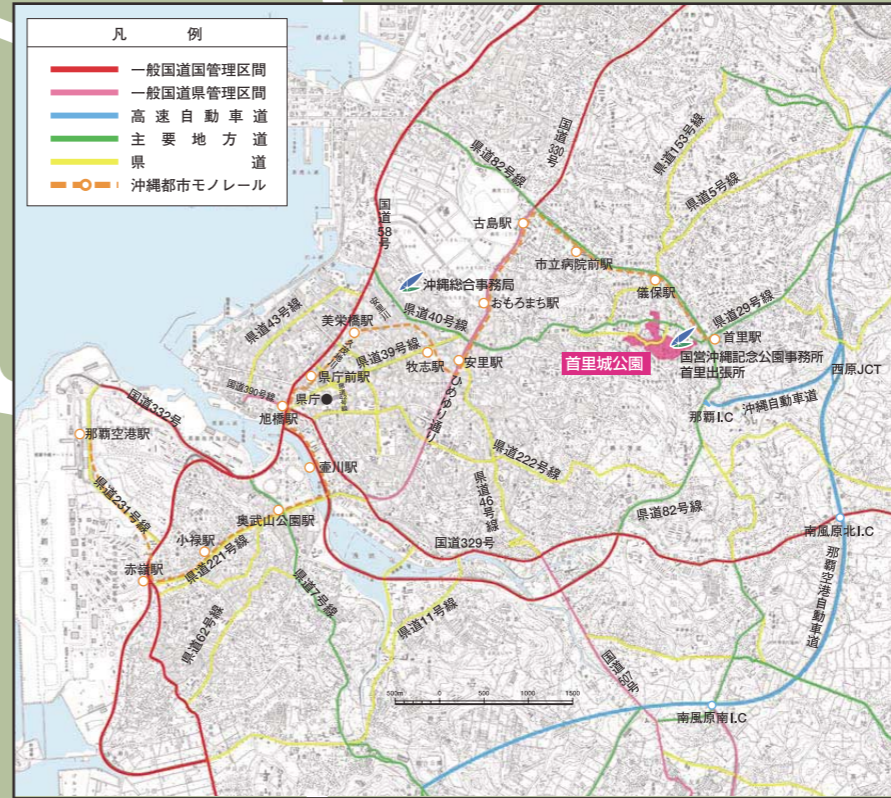


首里城地区のうち、国営公園整備事業としては城郭の内側を国が整備しています。有料区域のうち、南殿・番所、北殿及び奉神門については、都市再生機構が特定公園施設整備事業として整備しました。飲会門など城郭部分については、首里城城郭等復元整備事業として沖縄県教育庁が整備を行い、城郭の外側にある首里杜館、駐車場などは県営の都市公園事業として沖縄県土木建築部が整備しています。

■施工区分(有料区域)

表示	施工
	沖縄総合事務局
	都市再生機構

表示	事業名
	国営公園整備事業
	県営都市公園事業
	首里城城郭等復元整備事業
	特定公園施設整備事業
	県道事業
	都市計画道路 首里城線街路事業



国営公園区域

- 国営公園区域
- 有料区域 (H23末時点)
- 未供用区域 (H23末時点)

「この地図は、沖縄県知事の承認を得て、同県発行の2,500分の1の都市計画基図を複製したものである。(承認番号)沖都復平13-1号」

首里城公園施設概要

1 首里杜館 (すいむいかん)



「首里杜館」は首里城公園のインフォメーションセンターであり、また情報展示と休憩施設である。総合案内、レストラン、売店、駐車場等があり、首里城を見学する前に必要な予備知識を提供する。開園：平成4年

4 歓会門 (かんかいもん)



別名：あまへ御門(あまえうじょう)
首里城の城郭内へ入る第一の門である。王朝時代首里城へは中国皇帝の公式の使者「冊封使(さっぽうし)」が招かれたが、こうした人々を歓迎するという意味でこのように名付けられた。復元：昭和49年

6 瑞泉門 (すいせんもん)



別名：ひかわ御門(ひかわうじょう)
瑞泉とは、「立派な、めでたい泉」という意味である。門の手前右側にある湧水「龍樋(りゅうひ)」にちなんでこのように名付けられた。復元：平成4年

10 万国津梁の鐘 (ばんこくしんりょうのかね)



この鐘は「万国津梁の鐘」と名付けられ「琉球は南海の美しい国であり、朝鮮、中国、日本との間にあって、船を万国の架け橋とし貿易によって栄える国である」ということを示す銘文が刻まれている。具体的な設置場所が不明なため供屋に設置している。復元：平成12年

■開園・開館時間

時期	開園時間(無料区域)	開館時間(有料区域)	首里杜館駐車場
4月～6月	8:00～19:30	8:30～19:00 入館券販売締切18:30	8:00～20:00
7月～9月	8:00～20:30	8:30～20:00 入館券販売締切19:30	8:00～21:00
10月～11月	8:00～19:30	8:30～19:00 入館券販売締切18:30	8:00～20:00
12月～3月	8:00～18:30	8:30～18:00 入館券販売締切17:30	8:00～19:00

7 漏刻門 (ろうこくもん)



別名：かご居せ御門(かごいせうじょう)
漏刻とは、中国語で「水時計」という意味で、往時は水槽が置かれ、水が漏れる量で時間を計っていたといわれている。また、身分の高い役人も国王に敬意を表し、この場所で籠を降りたということから別名「かご居せ御門」とも呼ばれている。復元：平成4年

11 広福門 (こうふくもん)



別名：長御門(ながうじょう)
広福とは「福を行き渡らせる」という意味である。王朝時代、この建物には神社仏閣を管理する「寺社座」と士族の財産をめぐる争いを調停する「大与座(おおくみぎ)」という役所が置かれていた。復元：平成4年

2 守礼門 (しゅれいもん)



首里城の中でも代表的な門がこの守礼門である。正面の扁額には「守禮之邦(しゅれいのくに)」と書かれており、「琉球は礼節を重んじる国である」という意味。復元：昭和33年

5 龍樋 (りゅうひ)



龍樋は、龍の口から湧水が湧き出していることからこのように名付けられた。王朝時代は王宮の飲料水として使われ、また中国からの使者「冊封使(さっぽうし)」が琉球を訪れた時、那覇港近くにあった宿舎「天使館」まで毎日ここから水を運んだといわれている。復元：平成4年

8 日影台 (にちえいだい)



漏刻門の正面に置かれている日時計で、漏刻門の水時計の補助的な道具として使われていた。復元：平成12年

12 下之御庭 (しちやめうな)



首里城正殿のある「御庭」へ入る前の広場で、正殿前で行われる様々な儀式的控え場である。王朝時代、この建物には神社仏閣を管理する「寺社座」と士族の財産をめぐる争いを調停する「大与座(おおくみぎ)」という役所が置かれていた。復元：平成4年

3 圓比屋武御嶽石門 (そのひやんうたきいしもん)



国王が外出する際、旅の安全を祈願した礼拝所である。琉球石造建造物の代表的なもので、沖縄戦で一部破壊され1957年に復元された。また平成12年に世界遺産に登録された。復元：昭和32年

9 供屋 (ともや)



供屋の建物用途は不明である。建物の規模や屋根形状は配置図と絵図から想定していた。復元：平成12年

13 系図座・用物座 (けいずざ・ようもつざ)



「系図座」は士族の家系図を管理していた役所。「用物座」は城内で使用される物品、資材等の管理を行っていた所である。現在は休憩場等として利用されている。現在は城内でのイベント等に利用している。復元：平成12年

14 首里森御嶽 (すいむいうたき)



「琉球開闢神話(りゅうきゅうかいびやくしんわ)」によれば、神が造られた聖地であるとされている。また、城内にはここを含めて「十嶽(とたけ)」と呼ばれる礼拝所があったといわれ、琉球最古の歌謡集「おもろさうし」にも首里森御嶽に関する詩歌が多数登場する。復元：平成9年

18 奉神門 (ほうしんもん)



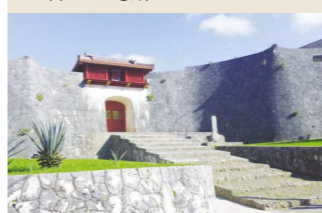
別名：君誇御門(きまほこりうじょう)
奉神門は「神をうやまつ」という意味で、首里城正殿のある「御庭」へ入る最後の門である。王朝時代、北側は薬類・茶・煙草等の出納を取り扱う「納殿(なでん)」、南側は「君誇(きまほこり)」で城内の儀式的の時に使われた。復元：平成4年

22 北殿 (ほくてん)



王府の中央行政庁として、日常は大勢の官人が出入りし、首里城の中で最も活気のある館であった。中国の使者「冊封使(さっぽうし)」を接待する場所としても使用され、またペリー提督が首里城を訪れた時もこの北殿で歓迎の宴が催された。復元：平成4年

26 継世門 (けいせいもん)



別名：すえつぎ御門(すえつぎうじょう)
首里城の東側にある通用門。国王が亡くなると世継ぎの王子が、この門を通して城内に入り世継ぎ(よほこりてん)で王位継承した事からこの名前が付けられた。復元：平成10年

15 西のアザナ (いりのあざな)



城郭の西側に築かれた見晴らしのよい物見台が西のアザナである。往時はここに旗を立て鐘を備えて城下に時を知らせていた。この場所からは、慶良間諸島や那覇の町並みが一望できる。復元：平成12年

19 御庭 (うな)



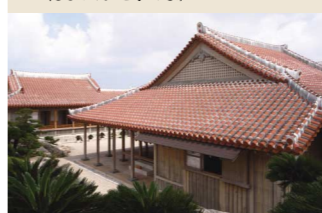
御庭は、年間を通じて様々な儀式が行われた広場である。御庭には磚(敷き瓦)というタイル状のものが敷かれているが、この色違いの列は儀式的の際に諸官が位の順に並ぶ目印の役割をもっていた。復元：平成4年

23 右掖門 (うえきもん)



別名：寄内御門(よすふいちうじょう)
歓会門、久慶門、淑順門へと通じる門で、御内原への通用門として使用していた。復元：平成12年

27 書院・鎖之間 (しよいん・さすのま)



書院は国王が日常の執務を行った建物であり、また冊封使(さっぽうし)や那覇駐在の薩摩役人を招き、ここで接待することもあった。鎖之間は王子などの控所であり、諸役の者たちを招き懇談する施設だったといわれている。復元：平成19年

16 木曳門 (こびきもん)



この門は首里城の修復工事の時、資材の搬入口として使用された門である。普段は石積によって封鎖されていた。現在は見学のルートの一部として利用している。復元：平成4年

20 南殿・番所 (なんてん・ばんどころ)



右側が「番所」左側が「南殿」である。「番所」は正殿を訪れる人々の受付や国王への取り次ぎ等を行っていたので、「南殿」は主に日本の儀式的の際に諸官が位の順に並ぶ目印の役割をもっていた。復元：平成4年

24 寒水川 (すんがーがー)



寒水川は瑞泉門前の龍樋とならんで首里城内の重要な水源でした。龍樋が王宮や中国皇帝の使者・冊封使(さっぽうし)の飲料水として使われていたのに対し、寒水川の往時の使われ方の記録は残されていませんが、生活用水のほかに防火用水としても利用されたといわれています。

28 書院・鎖之間庭園 (しよいん・さすのまていえん)



沖縄県内のグスクの中で、史実として確認された唯一の庭園。平成14年度から発掘調査や絵図資料の分析や緻密な工事監修を経て、平成20年の8月から一般公開。平成21年7月国の名勝に指定された。復元：平成20年

17 京の内 (きょうのうち)



首里城発祥の地ともいわれる聖域で、城内最大の祭祀空間であった。ここでは、開大君(きこえおおきみ)や三平等(みひら)の大あむしられと呼ばれる首里の神女たちによって王家繁栄、航海安全、五穀豊穡などが祈られた。うっそうとした木々、御嶽、物見台等を復元整備している。復元：平成15年

21 正殿 (せいてん)



正殿は首里城の中心的な建物である。木造三階建てで一階は「下庫理(しちやくい)」と呼ばれ、主に国王自ら政治や儀式的を執り行う場、二階は「大庫理(おほやくい)」と呼ばれ、国王と親族、女官らが儀式的を行う場であった。三階は通気のために設けられた屋根裏部屋である。復元：平成4年

25 久慶門 (きゅうけいもん)



別名：ほこり御門(ほこりうじょう)
歓会門が正門であるのに対し、ここは通用門で主に女性が利用していたといわれている。また、国王が寺院を参詣したり、浦添から以北の地方へ行幸する時にこの門を使用した。復元：昭和58年

29 淑順門 (しゆくじゆんもん)



別名：みもの御門(みものうじょう)
うなか御門(うなかうじょう)
国王やその家族が暮らす御内原(おうちばら)と呼ばれる場所への門として使用していた。復元：平成22年

国営沖縄記念公園とは

国営沖縄記念公園は、昭和50年度に開催された沖縄国際海洋博覧会を記念し、翌51年度よりその跡地に整備を進めている「海洋博覧会地区」と沖縄の復帰を記念する事業の一環として、昭和61年度より首里城の復元を進めている「首里城地区」からなります。

国営沖縄記念公園事務所では、沖縄観光振興の支援を図れるよう整備を促進するとともに、来園者が安全で快適に園内を利用できるよう必要な維持・運営管理を実施しています。

また、両地区の名称は来園者に解りやすく利用しやすい名称として、それぞれ「海洋博公園」「首里城公園」としています。

閣議決定

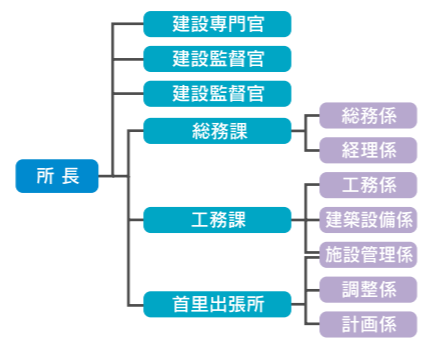
■沖縄国際海洋博覧会を記念する公園の設置 (昭和50年7月15日 閣議決定)

沖縄県国頭郡本部町において開催される沖縄国際海洋博覧会の会場(面積約100ヘクタール)の跡地に、沖縄国際海洋博覧会記念公園(仮称)を設置し、国により整備する。

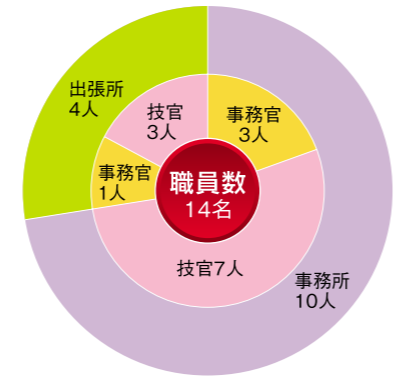
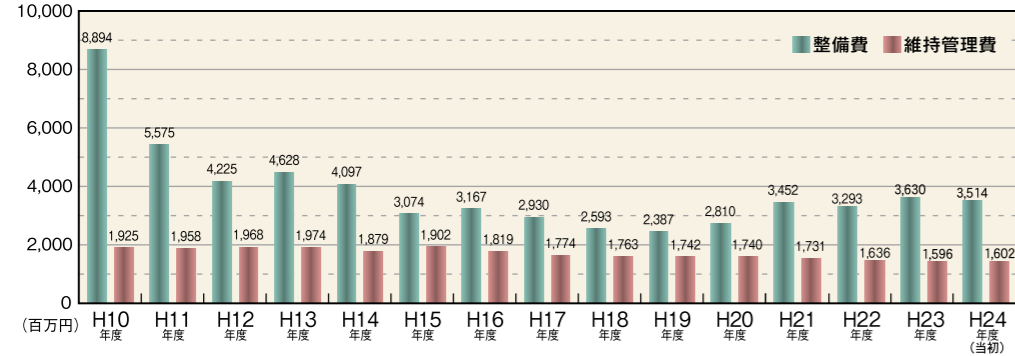
■沖縄復帰記念事業として行う都市公園の整備 (昭和61年11月28日 閣議決定)

沖縄の復帰を記念する事業の一環として、首里城跡地(沖縄県那覇市首里城跡地の面積約4ヘクタール)の区域を国営沖縄記念公園首里城地区、昭和50年7月15日に閣議決定(沖縄国際海洋博覧会を記念する公園の設置について)された国営沖縄海洋博覧会記念公園を国営沖縄記念公園海洋博覧会地区として整備する。

組織図と職員構成



事業費の推移(補正含む)



事業の沿革

年代	事項
昭和50	07.15 沖縄国際海洋公園の設置について閣議決定される。
07.20	沖縄国際海洋博覧会開幕
01.18	沖縄国際海洋博覧会閉幕
03.22	都市計画法に基づき都市計画決定(沖縄県告示第88号)(77ha)
03.27	都市計画事業承認(建設省告示第507号)S51.3.27~S56.3.31
昭和51	07.31 国有財産等引継(7月31日まで通産省所管、8月1日より建設省所管)
08.01	暫定供用開始
08.30	都市公園の設置の公告(建設省告示第1237号)(海洋博覧会地区)
09.01	正式供用開始
昭和56	03.23 都市計画事業承認(建設省告示第625号)S51.3.27~S61.3.31
03.22	都市計画事業承認(建設省告示第731号)S51.3.27~S66.3.31
昭和61	11.28 首里城跡約4haを「国営沖縄記念公園首里城地区」として整備することが閣議決定され、従来の海洋博覧会記念公園は「国営沖縄記念公園海洋博覧会地区」と位置付けられる。
昭和62	02.27 首里城公園都市計画決定(沖縄県告示第135号)(約17.8ha)
10.05	都市計画事業承認(建設省告示第1687号)S62.10.5~H3.3.31(首里城地区)
昭和63	01.28 都市公園を設置すべき区域の決定告示(建設省告示第133号)首里城地区追加
平成元	11.03 首里城正殿建築工事起工式
平成3	03.12 都市計画事業承認(建設省告示第519号)S51.3.27~H8.3.31(海洋博覧会地区)
03.12	都市計画事業承認(建設省告示第520号)S62.10.5~H8.3.31(首里城地区)
05.15	首里城正殿内覧会
平成4	10.27 都市公園の設置の告示(建設省告示第1749号)(首里城地区)
11.03	首里城公園供用開始(約1.7ha)
平成8	03.28 都市計画事業承認(建設省告示第1030号)S51.3.27~H13.3.31(海洋博覧会地区)
03.28	都市計画事業承認(建設省告示第1031号)S62.10.5~H13.3.31(首里城地区)
平成13	03.30 都市計画事業承認(国土交通省告示第444号)S51.3.27~H15.3.31(海洋博覧会地区)
03.30	都市計画事業承認(国土交通省告示第445号)S62.10.5~H15.3.31(首里城地区)
平成15	03.03 都市計画事業承認(国土交通省告示第354号)S51.3.27~H20.3.31(海洋博覧会地区)
03.03	都市計画事業承認(国土交通省告示第355号)S62.10.5~H20.3.31(首里城地区)
平成20	02.29 都市計画の変更(沖縄県告示第93号)(海洋博覧会地区)(77.0ha)
03.31	都市計画事業承認(国土交通省告示第391号)S51.3.27~H25.3.31(海洋博覧会地区)
03.31	都市計画事業承認(国土交通省告示第391号)S62.10.5~H25.3.31(首里城地区)
平成21	01.21 都市計画の変更(沖縄県告示第19号)(海洋博覧会地区)(77.2ha)
平成23	07.15 都市計画事業承認(国土交通省告示第756号)S51.3.27~H25.3.31(海洋博覧会地区)
07.15	都市計画事業承認(国土交通省告示第756号)S62.10.5~H25.3.31(首里城地区)

事務所の沿革

年代	事項
昭和51	07.01 海洋博覧会記念公園事務所発足(所長、建設専門官、庶務係、工務係、施設管理係)
昭和52	10.01 庶務課設置(庶務係)
昭和53	04.05 建設専門官を廃止、工務課設置(工務係、施設管理係)
昭和54	10.01 工務課に建築設備係設置
昭和56	10.01 建設監督官設置
昭和59	10.01 庶務課に経理係設置
昭和61	10.01 建設専門官設置、工務課に計画係設置
03.25	海洋博覧会記念公園事務所から国営沖縄記念公園事務所へ名称変更
昭和62	05.21 建設専門官、計画係の廃止
06.24	国営沖縄記念公園事務所 首里出張所開所
10.01	首里出張所に工事係設置
昭和63	10.01 建設監督官設置
平成元	10.01 首里出張所工事係廃止、工事第一係、工事第二係設置
平成2	10.01 首里出張所に調整係設置
平成7	04.01 建設専門官設置、首里出張所工事第一係、工事第二係廃止、工事係設置
平成22	04.01 首里出張所工事係廃止
	庶務課から総務課へ名称変更

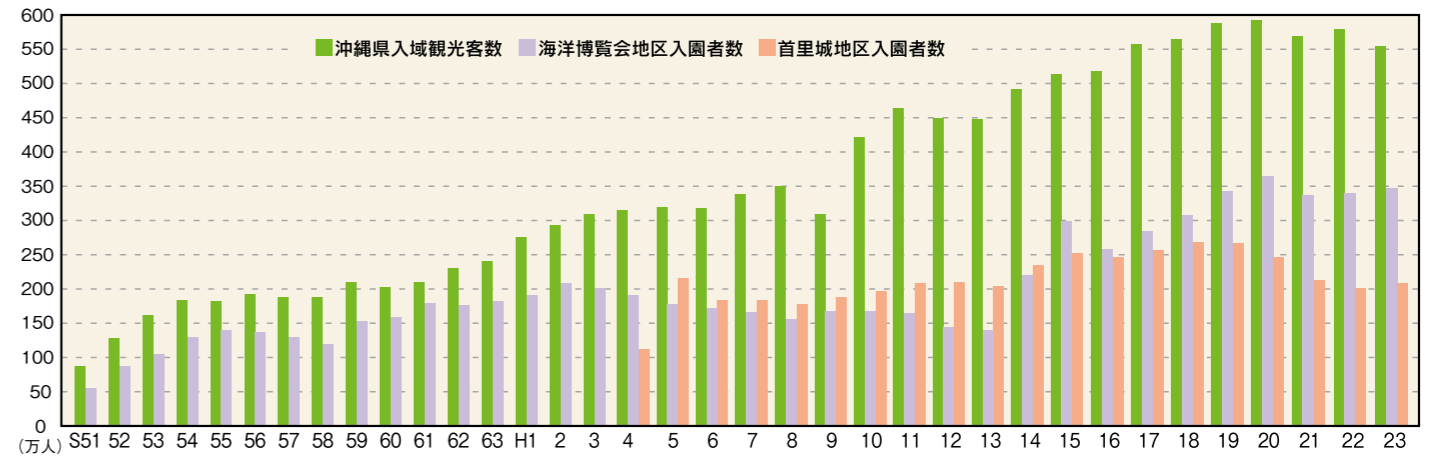


資料編

首里城地区

年度	入園者					入館者数 (有料区域)
	入園者総数	大人	小人	日最大	日平均	
平成4	1,114,181	1,032,895	81,286	19,930	7,478	959,325
5	2,148,249	1,978,129	170,120	22,434	5,902	1,720,194
6	1,841,073	1,690,165	150,908	21,676	5,044	1,469,324
7	1,852,366	1,709,220	143,146	27,955	5,061	1,510,741
8	1,771,089	1,647,553	123,536	13,988	4,893	1,456,269
9	1,887,202	1,773,499	113,703	11,408	5,213	1,582,424
10	1,973,565	1,822,447	151,118	11,236	5,407	1,619,512
11	2,095,646	1,922,915	172,731	10,557	5,757	1,721,869
12	2,117,218	1,965,024	152,194	12,936	5,914	1,680,402
13	2,035,291	1,887,108	148,183	12,811	5,591	1,505,807
14	2,361,566	2,189,197	172,369	13,209	6,506	1,693,771
15	2,513,038	2,331,615	181,423	14,528	6,885	1,755,507
16	2,455,362	2,244,301	211,061	12,637	6,764	1,674,707
17	2,569,726	2,345,458	224,268	16,651	7,040	1,794,188
18	2,674,641	2,436,003	238,638	14,502	7,328	1,820,870
19	2,629,741	2,374,049	255,692	13,494	7,205	1,913,287
20	2,470,340	2,198,019	272,321	12,913	6,768	1,936,387
21	2,130,139	1,850,312	279,827	10,669	5,836	1,790,981
22	2,008,352	1,754,760	253,592	10,944	5,502	1,674,924
23	2,102,927	1,829,548	273,379	10,636	5,761	1,680,539
計	42,751,712	38,982,217	3,769,495	-	-	32,961,028

入域観光客と公園入園者の推移



平成23年度アンケート調査による利用実態(首里城地区)

